令和６年度　学校経営方針と重点

Ⅰ　学校経営の基底　「教育は人づくり」

公教育の大きな使命は「人間尊重の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人間を育成すること」です。このことを受け、本校では**「教育は人づくり」**という原点に立ち、**「じっくり考え、はっきり伝え合い、しっかり形にする生徒」**の育成をめざします。

【校訓】※昭和２６年制定

「誠実創造　自律責任　理解協力」

【教育目標】※平成２８年度改定

「じっくり考え　はっきり伝え合い　しっかり形にする生徒」【めざす生徒像】

【努力目標】

１　夢の実現に向けて　自律した学びができる生徒
２　自他の良さを認め　集団の向上に力を発揮できる生徒
３　自らの健康課題を意識し　解決に向けて取り組む生徒

●本校における、教育目標を具現化するための３つの努力目標には、「自律した学び」「集団の向上に力を発揮」「解決に向けて取り組む」を掲げています。また、そのためにはまず、「個別対応」「個を生かす」ことが求められます。

この**「自律した学び　集団の向上に力を発揮　解決に向けて取り組む」生徒**に育てていくための教職員としての働きかけについては、**各学年、各学級、各教科、各分掌など全ての教育活動における担当者**が、それぞれの持ち味を生かしながら、**意図的・計画的に、そして組織的に**進めていかなければなりません。

教科を例にするならば、どの場面で生徒自らの考えを持たせるのか、生徒一人一人が自らの考えを持ったかをどう確かめるのか、それをどういう表現方法で表現させるのか、他と関わる場面を設定、どう個を生かすのか、などを考えた上で授業を進める必要があります。※アウトプット型の学習をめざす

全ての教育活動において、どの場面でどのような働きかけをし、どのように評価していくのかを構想しながら、一人一人を「自ら判断し、自ら行動に結びつけていく」生徒に導いてほしいと思います。そのためには、**どの場面でどの子（個）を生かすのか**、についても意図的・計画的に指導できるよう準備をお願いします。そのことが「個を生かす」ことにつながると考えます。

●「個を生かす」ことを生徒に指導する上で、我々**教職員も「個を生かす」集団**とならなければなりません。

全ての教職員は、みな特徴があり、生徒に対する指導でも様々な働きかけ方があります。どのような生徒になってほしいのか、については教職員集団として一致した上で、各教職員の**「個を生かし」ながら協働指導体制**をつくりあげてほしいと思います。仲間を生かすことが自分も生かされることにつながります。個を生かし合いながら、職員のまとまりを高めるとともに、生徒への教育効果を高めてほしいと思います。学年という組織体が互いの立場にたってそれぞれ補完しあえるようなそんな集団でありたい。

【めざす学校像】

① **あいさつが飛び交い、笑顔に満ちている学校**
② **思いやりが心に届く学校**
③ **学んだことで自分の成長が確かめられる学校**
④ **歌声がこだまする学校**
⑤ **本気で生徒のために励む教師のいる学校**

※「めざす学校像」として５つ掲げています。すべてが大事であり、５つとも目指すべき素晴らしい学校の姿です。

この中で、特に「③　学んだことで自分の成長が確かめられる学校」について、意図的・計画的に準備をお願いします。

●子どもは自分の成長を、保護者は我が子の**成長を感じることができる教育活動**の重視
・子どもの生活をしっかりと見取る手立てと成長を伝える方法を確認
・子どもを成長させる指導（教科・学級づくり・各行事・道徳・部活動ほか）
※ペーパーテスト以外の成長の評価と教科ではペーパーでも得点できる力をつける
・子どもの成長意欲を喚起するための声がけ（良いところや成長した点の評価から）
・子どもの成長のためには､学校と保護者との連携の重要性を認識し、問われる前に発信する（家庭との連絡・通信等）

Ⅱ　基本方針

「めざす生徒像」､「めざす学校像」を実現するために、次の３つの基本方針を掲げます。

		ポイント
１	**「対話」を基底とした教育活動をすすめる**	**（自己決定の場）**
２	**「個」を育て、集団を高める教育活動をすすめる**	**（自己存在感）**
３	**「和」を大切にし、全教職員で教育活動をすすめる**	**（共感的人間関係）**

※生徒指導の３機能

この基本方針に基づき教育活動をすすめ、学校課題を解決していくために､**「教師は子どもを生かすために存在し、すべての教育活動は子どもたちのためにある」**という考えに立ち、めざす教師像を掲げます。

【めざす教師像】

	ポイント
（１）子どもに寄り添い、認め、励まし、伸ばす教師	**（子どもに対する愛情）**
（２）指導力の向上に向けて、自己研鑽に努める教師	**（教育に対する情熱）**
（３）挨拶、礼儀、コミュニケーションを大切にし、社会人として信頼される教師	**（社会人としての自覚）**

●**プロの教師としての力量**を高めるため、**子どもから学ぶこと**の重視
・生徒を成長させることが我々の仕事である以上、プロの教師としての力量を高めるには、生徒の反応や生徒の状況から学びとるしかないと思います。この「生徒の反応や生徒の状況から学びとること」が、我々に「どのような指導が適切なのか、どのような教材が適切なのか、どのような発問が生徒の思考を深めるのか」等々に気づかせることになります。つまり、教職員としての力量を高め、プロの教師へと近づくためには､「子どもから学ぶ

こと」が重要です。保護者も高い学歴をもつ方はたくさんいます。我々は、「子どもから学ぶこと」により、「子どもを教育し、成長させるプロ」を目指したいと思います。

・上記のことから、目の前の生徒が成長していないとすれば、「この地域は勉強ができない」とか「小学校の指導がよくないから伸びない」とかいう言葉は言い訳にしか聞こえないと思います。子どもを成長させることが我々の業務であり、我々は職業としてその道を選びました。「現状を把握し、受け止め、生徒を成長させること」が、我々の力量が高まっていることを示す証だと思います。

Ⅲ　指導の重点

1　**自らの考えをもち、深め、表現する学習指導の推進**「主体的・対話的で深い学び」

①　自ら学ぶ意欲や学び方を身に付ける指導の工夫に努める。　（**楽しい授業**）

②　ねらいを明確にし、生徒に成就感をもたせる指導の工夫に努める。（**わかる授業**）

③　個に応じた指導（少人数指導、個別指導）の工夫に努める。　（**できる授業**）

④　**生徒一人一人に自らの考えをもたせる場と発問の工夫に努める。また、深めるための場の工夫に努める。**

⑤　クロームブックを活用した授業及び AI ドリルを用いた学力の定着に努める。

（ICT 教育の推進）

⑥　諸テストの事前指導、結果分析を生かした事後指導を大切にする。

⑦　**授業規律の確保に努める。**

●「凡事徹底」を指針とし、こつこつと取り組む生徒を育成する。全ての子どもは、わかりたいと思っている。その意志を教師がそいではならない。

2　自己指導能力の育成をめざした生徒指導の推進

①　**基本的な生活習慣**の定着のための指導に努める。

（挨拶、身だしなみ、言葉遣い、時間を守る等、時間（携帯等）の使い方の指導、携帯電話等ネット対応）

②　**部活動**においては、心身を鍛え、礼節を尊び、周りに感謝できるように指導する。

③　**日常観察、情報交換**を密にし、生徒理解に努めるとともに、教育相談を進める。

④　いじめ、不登校及び問題行動の**未然防止、早期発見・早期対応**に努めるとともに、家庭・地域社会及び関係機関との連携を図る。**（初期対応の重要性）**

⑤　**指導が必要な場面を逃さず、全教育活動において生徒指導に努める。**

●初期対応の重要性を認識し、指導をためらわない。時間の経過とともに対応に労力を割くことになる。

3　道徳の時間を要とし全教育活動を通して、豊かな心を育む道徳教育の推進

①　道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するための、道徳教育の全体計画と特別の教科「道徳」の年間指導計画を作成する。

②　生徒の心に響き、心を揺さぶり、道徳的価値の内面的な自覚と道徳的実践力を高める指導の工夫に努める。

③　道徳的価値に触れ、心を動かす体験活動の充実に努める。

●他教科と違い、変容が見えにくい、子どもたちの将来の生活に必ず生きることだと信じ、計画的に行う。

4　全教育活動を通して、自己管理能力を高める健康教育の推進

①　自他の健康に関心を持ち、健康の保持増進や回復を目指す実践力の基礎を育てる。

②　身の回りの生活に潜んでいる危険を回避するための予測と対策や自然災害時の安全の確保等について適時性をもとに指導の工夫に努める。

5　自己を見つめ、学ぶことや働くことの尊さを実感させ、生き方を考えさせるキャリア教育の推進

①　自らの生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう計画的、組織的、継続的にキャリア教育を進める。特に、自らの将来の目標をもたせ、その目標達成に向けた綿密な道筋を考え調査し、自らの励みになる表現の場を設定する。

②　進路情報の収集・整理や進路相談を進める等､学級における進路指導の充実に努める。特に、自らの将来の目標達成のための進路指導に努める。

③　総合的な学習の時間との関連を図りながら、勤労観・職業観をはぐくむための職場体験等の啓発的な体験活動を進める。

●「夢を語れる生徒」の育成をめざし、将来の目標をもたせ、その目標に向けて取り組ませることが重要なことで、成長過程において目標が変わることは当然のことである。

6　ボランティア活動の充実

①　学年や部活動を単位とした**ボランティア活動**の推進

②　感謝される喜び、見返りを求めない気持ちの指導、地域との交流（地域の信頼）

●「地域の核となり頼られる中学生」となる意識をもたせ活動させる。

7　めざす生徒像の実現に向けた校内研修の推進

①　小中連携教育の推進を図るため、9 年間の系統性をもたせた教育の実現をめざし、各教科ごとの指導内容を細分化させる。

②　校内研究の焦点化と具体化に努め、実践的・日常的な研修を進める。

③　小中お互いの授業を見合い、指導の一貫性を図る。

④　研究の成果の累積に努め、成就感があり、研修意欲の向上につながるよう工夫する。

⑤　研修等の伝達を適宜行い、研修内容の共有を図る。

●他教科と連携した授業の構築を行うためにも、他教科から学ぶことは多い。参考となることはとことん自分の物にする姿勢が重要である。

8　家庭や地域社会と連携した教育の推進

①　教育活動の理解と協力を得るための相互の情報交換の場を設ける。
（学校評議員会、ＰＴＡ集会、家庭訪問、学校・学年通信、保護者アンケート等）

②　地域の人材を生かした教育活動を推進する。

③　学校行事への保護者の参加と地域行事への生徒の参加を促す。

④　学区の小学校、地域団体、関係機関等との連携を進める。

●開かれた学校、地域の核となる中学生がいる学校として信頼されるよう連携を進める。

Ⅳ　確かな教育活動をすすめるための原則

１　安全を何よりも最優先し、危機管理を日常化する。気になるものはメモの習慣、メモの管理、確実な引き継ぎ

２　**報**告・**連**絡・**相**談・**確**認の徹底や**起案システム**の確立により、事務処理のミスや指導の不一致を防ぐ。

３　**学校ファイルサーバー**を活用して、指示・伝達事項の周知、教育情報の共有化、資源の節約及び事務処理の効率化を図るとともに、日常的な情報交換を密にし、職員間の意思疎通（風通し）を良くする。

４「生徒・保護者・地域のため」を思い浮かべ「明るく・元気に・前向きに」プラス「本気」の教育を合い言葉とする。

５　５Ｗ１Ｈを基本とする。
「どんな目的で、誰が、いつ、どこで、何を、どうするのか。」

６　共通理解し、協働指導体制の構築に努める。

その他

安全・安心　…　校内危機管理体制の構築と安全への意識高揚
→ケガの防止、保健室利用の生徒の減少

ネット依存　…　現状把握と情報発信による保護者の危機管理意識高揚及び関係機関との連携